

特集 「2022年度研究会優秀賞受賞論文紹介」

市民共創知研究会：SIG-CCI-010-09 2022年11月23日

実践者の言語データが導くハイブリディティ：
現象のメカニズム

加藤 知愛

●授賞理由

本論文は、分野横断的なハイブリッド組織の一例として「地域コーポレーションを体現するグリーンファンドグループ」に着目し、著者がこれまでに行ってきた分析（当該グループの成功要因、経営形態、政策形成過程、ネットワーク機能）からこぼれ落ちるインタビューに含まれる言語データを分析することで、共創やイノベーションのプロセスやメカニズムの分析を試みたケーススタディである。提案された仮説モデルは、研究会で、「実践知から表出する現象」についての対話を誘発した。また、幹事・専門委員の投票で最多得票を獲得したため、授賞に値する。

●論文概要

広域複合的な自然災害とバイオハザードに直面する今日、その危機を管理し、住民の暮らしを守るためには、パブリックセクター・プライベートセクター・ソーシャルセクターの別を超えてそれらの役割を果たす組織が必要である。地域型の複合企業（地域コーポレーション）は、各セクターを横断する複合的なニーズに対応するビジネスモデルをもち、それらの成果を中長期的に統合する機能を有する。本研究は、日本型のハイブリッド組織：地域コーポレーションを体現するグリーンファンドグループに着目し、これまでに行ってきた当該グループの分析～成功要因〔1. 社会変革ビジネスモデル、2. 非営利活動と営利事業を併有する経営形態、3. 政策形成と地域ビジネスの統合機能、4. ネットワーク形成機能〕からこぼれ落ちた言語データを分析して、現象のメカニズムを解明することを目指した事例研究である。

本研究では、グループの実践者に実施したインタビューデータを活用して2段階の解析を行った。第一次解析で、実践者の言語データを抽象度の異なる三つのコード（1. 個人を表す言葉：word、2. 組織を説明する概念：property、3. 言葉の意味：dimension）に分類し、実践者の行動のコンテキストを描写した。第二次解析で、一次解析から表出した行動のコンテキストをモジュール化することにより、実践者の行動と組織の活動によって引

き起こされる現象を描写した。言語データ管理とコーディングのために、質的研究解析ソフト Nvivo を活用した。また、共起ネットワーク図の作成と言語体系の解析および階層別クラスタ解析には、User Local テキストマイニングを活用した。インタビューは、7名の実践者と関係機関の諸氏に対し、3段階に分けて行った。第1段階のインタビューは、実践者の組織の認識と関わり方について、対面で問いかけた。この結果を検証するため、(N)グリーンファンドの再生可能エネルギー事業のプログラム評価を行い、この評価結果を検証するため、第2段階のインタビュー調査を実施した。さらに、第2段階のインタビュー調査の結果の有効性を検証するために、グループ組織の特徴を掘り下げて問う第3段階のインタビューを実施し、実践者の言葉の意味を解釈した。最後に、それらの現象の関係性を描写することにより、ハイブリッド組織の構造とメカニズムを概念化した。

第一次解析の結果、実践者の二つの行動のコンテキスト（1. 社会的使命を伝達する、2. 新しい経済の形を創出する）と「社会を改良する九つのメソッド」が導き出された。第二次解析の結果、二つの現象（1. 社会的使命の伝達メカニズム、2. 新しい地域経済の創出メカニズム）が明らかになった。これらの結果から導き出されたハイブリッド組織の創出プロセスとアプローチとハイブリッド組織が引き起こす現象のメカニズムは、後続するハイブリッド組織の経営戦略モデルの一つとなる。

著者紹介



加藤 知愛（正会員）

ハイブリディティ研究者。現象としてのハイブリディティを読み解き、ハイブリッド組織による産業創造アプローチのシナリオを描く。レジリエント社会論、フィールドワーク、政策イノベーション、公共合意形成など。北海道大学公共政策大学院学術研究員。公共政策学研究センター研究員。パイロット・プラクティス株式会社代表。「AI技術は市民共創を促すツールになる」。事前復興まちづくり計画立案、BCP策定、起業家教育教材開発、プロジェクト評価にも従事する。